発行日2007年4月10日 [R4]

BIT89

ビット８９ニュース INTEREST

株式会社 ビット89
東京都品川区大井1-6-3　アゴラ大井町ビル7F　〒140-0014）

2007年4月号
隔月発行）

ハイライト:今回のテーマは

「シニア・ベンチャー」

Business Insight
アクティブ・シニアの心意気

The 特集
増えるシニア・ベンチャー

Brain 89ers
シニア・ベンチャーと呼ばれて

目次：

	ページ
Business Insight	1
The 特集	2
気になるデータ	2
Brain89ers	3
お知らせ&トピックス	4
発行書籍のご案内	4
ビット89インフォメーション	4

インフォシェフ
吉田健司 の Business Insight 見識・洞察）

アクティブ・シニアの心意気

かつて「人生わずか50年」と謳われたが、江戸時代中期の伊能忠敬は50歳にして自己実現への道を踏み出している。彼は18歳で婿養子に入り、酒造業の伊能家を再興しその責任を果たすと、50歳で隠居し家督を長男に譲った。そして子供時代からの夢であった天文学を志し、江戸に出て幕府天文方の高橋至時に師事した。天文学を修めると、56歳から日本全国を歩き回り測量事業を開始した。そしてついには「大日本沿海輿地全図」を完成したというのは有名な話である。

また松下幸之助は50歳で終戦を迎えると、消失した工場から立ち上がり、ほぼゼロから松下電器という家電王国を築き上げている。さらに、本田宗一郎は43歳で本田技研工業を設立し、50歳で二輪車メーカーとして国内第一位の座を得ると、57歳でかねて念願であった四輪車メーカーへの道に挑戦し、世界のホンダを築いている。

さらに近年における海外事例では、カリフォルニア大学やスタンフォード大学で教鞭をとったジム・クラークが、イリノイ大学の学生でMosaicというブラウザを開発したマーク・アンドリーセンとともにNetscape Communicationsを設立したのは50歳のときである。ちなみに、このNetscape はインターネットのwww(World Wide Web)普及に多大な貢献をしているが、マイクロソフトがWindows98でInternet Explorer を標準装備したことで、シェアを失い、会社もAOLに買収されてしまっている。

昨今、IT業界を中心に20代で起業する若手ベンチャーが話題になっているが、新規開業の統計をみると、50代以上の開業者（創業者）の比率が、1991年11.5%、2000年23.8%、2005年30.5%と増えてきている（国民生活金融公庫の「新規開業実態調査」）。若者と比べた場合、50代起業者の優れた点は、約30年のビジネス経験を通じて、豊富な人脈と「経験価値」を得ていることではないだろうか。私自身、40歳で起業したが、それまでの会社勤務で得られた現場経験や多分野の人脈は、学問では決して得られない貴重な「事業財産」となっている。一方、50代以上の起業家にとって要注意なのは、長いサラリーマン経験があるため、将来構想のもと大きな事業案件を手がけようとする傾向が強い点だ。起業しても、恐らくは、これまで勤めていた企業のように潤沢で安定した事業資金があるわけではないので、会社として生き延びていくために、日々の日銭ビジネスを手がけなくてはならない。私も起業当時を振り返ると、「あなたは『経営』のことは得意でも、『商売』のことは不得意のようですね」と、先達よりクギをさされたことを今でも鮮明に記憶している。

今日、高齢化社会を迎えているが、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所によると、65歳以上の比率は2005年が20%であるのに対し、2055年は41%にまで高まるとのこと。すなわち、65歳以上は現在10人に2人であるが、50年後は10人に4人という割合になる。

このような高齢化社会ではシニアに対して、消費者としてだけではなく、働き手としても大きな期待が寄せられている。かつて、還暦を過ぎたら「ご隠居さん」などと言われて、縁側で孫と猫と日向ぼっこしながらお茶をすするというイメージがあったが、アクティブ・シニアなどと言われる今日、もはや昔話の世界である。

最後に、サミュエル・ウルマン(Samuel Ullman)の『青春の詩(YOUTH)』を読み返してみよう。

「. . 人間は年齢を重ねた時、老いるのではない。理想をなくした時、老いるのである。（中略）希望ある限り人間は若く、失望とともに老い朽ちる。」

★★★★★★★★★★★★★★★★

●この文章の無断転載を禁じます。

THE 特集 増えるシニア・ベンチャー

他の先進国に比べ、開業率が低い日本。団塊世代の定年時期を迎え、さまざまな活動に積極的なアクティブ・シニアが起業においても存在感を高めている。

シニア・ベンチャー・ブーム

目指せ！！中高年起業家」、定年起業―第2の人生は社長でいこう」、定年起業のすすめ 定年後を、楽しく豊かに過ごすために！」、熟年１人起業 あなたのその経験が武器になる！」、「定年起業』の始め方」、「定年起業』早わかりノート―人生を10倍楽しむ！」、60歳からのチャレンジ起業 いまからでも遅くない！」、56歳での起業。」――。ここ2年余りで出版された書籍のタイトルである。

2007年問題」の最初の年が始まり、日本社会における一大勢力である団塊の世代がどのようなセカンドライフを選ぶのかが注目を集めている。野村総合研究所が全国の55歳以上60歳未満の会社員・公務員を対象に実施したインターネット調査（2005年8月）によると、約8割が60歳を過ぎてからも仕事を持ち続けたいと考えている。そして、そのうち約15%の人が働く形態として起業を希望しているという。中高年にとって「起業」は人生の選択肢のひとつとして、当たり前ものになってきたようだ。国民生活金融公庫総合研究所による 新規開業実態調査」の 開業時の年齢」をみると、1996年には50歳代が全体の12.3%、60歳以上が1.7%であったのが、2005年には24.1%、6.4%となっている。2006年にはそれぞれ23.1%、5.3%に低下しているが、この10年で起業における中高年パワーが大きくなっているのがみてとれる。

中高年による起業

起業の増加は社会を活性化させるものとして歓迎すべきものである。しかし、気になる指摘もある。ニッセイ基礎研REPORT（2004年3月）では、中高年創業の特徴のひとつとして 準雇用」的な開業が多い点を挙げている。つまり被雇用者として仕事を続けたいがその希望が叶わないために創業したという人が多く、ベンチャー的な要素に富んだ起業が少ないという。そのため、雇用の創出、日本経済の活性化、開業率向上の牽引車という面での貢献はあるものの、日本の国際競争力や技術進歩に貢献する開業はあまり多くないだろうとみている。確かに数は少ないかもしれない。だが、Japan Venture Awards 2007シニア部門の受賞者などをみると、日本を元気にする、ベンチャー・スピリットに溢れた中高年起業が存在することも確かだと感じられる。

【シニア・ベンチャー訪問】 イスマンジェイ社 インタビュー

新素材「メラミックス」の開発に成功したシニア・ベンチャーの株式会社イスマンジェイを訪問し、設立者で代表取締役社長の渡邊敏幸氏（70歳）にお話を伺った。渡邊氏は工学博士として燃焼合成の専門家であるが、大手鉄鋼メーカー（大同特殊鋼）に長年勤務し常務取締役まで務めただけでなく、現在は北海道大学客員教授という肩書きも持ち、学問的専門知識と生産現場での経験、そして経営感覚を併せ持つ起業家である。定年後の2003年にイスマンジェイを設立、「メラミックス」の事業化でJapan Venture Awards 2007のシニア賞のほか、商工会議所会頭賞、かわさき起業家大賞、りそな神奈川応援賞などを受賞している。

「メラミックス」とは、鋼（メタル）とセラミックの特性を併せ持つ新シリコン合金で、強度は鉄の２倍、重さは鉄の４０%である。人体に無害であり、かつ砂漠の砂に含まれるシリコンを活用できるため、環境面、コスト面でも優れている。一般に素材分野の開発と事業化には多くの時間と資金を要する。大きな労力と困難を伴う事業の立ち上げを定年後に実現したわけだが、渡邊氏は、４５年間ひたすら素材開発を追いかけてきたら現在に至っただけで、年齢は問題でないという。ベンチャーであればこそ、大手メーカーという組織の枠組みの中では達成できなかったものへのチャレンジが可能であった。そして、現役時代から築き上げてきた多くの信頼できる人間関係が最大の財産になっていると熱く語る。中でも、同じ志をもつ松下昌史氏（現、副社長）というパートナーを得られたことが起業成功の大きな要因となった。

「メラミックス」はサンプル提供先による評価が順調に進んでおり、今年9月には月30トン規模での生産が開始される予定である。

松下昌史氏（左）と渡邊敏幸氏（右）

用語解説

Japan Venture Awards：
創業・ベンチャー国民フォーラム（経済産業省中小企業庁委託事業）が優秀なロールモデルとなるベンチャー起業家・起業支援家を選出、表彰している。起業家部門、起業支援家部門、地域貢献部門、シニア部門（2007年新設）がある。

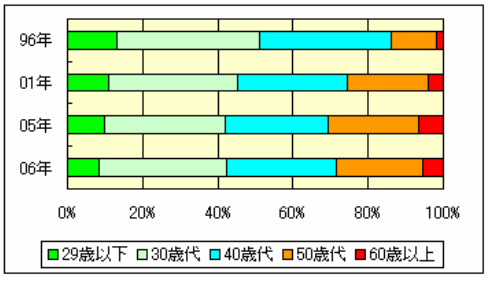
●Japan Venture Awards 2007 シニア賞受賞者
アクアフェアリー（株）代表取締役社長 相沢幹雄（①起業時の年齢：64歳 ②事業内容：燃料電池を用いた携帯電話用外付け充電器の開発）、（株）チャフローズコーポレーション 代表取締役 笹谷廣治（①58歳 ②ホタテ貝殻を利用した薬や塗料等の製造・販売）、（株）イスマンジェイ 代表取締役社長 渡邊敏幸（①64歳 ②新シリコン合金「メラミックス」の製造）、三洋テグス（株）代表取締役 石川敏夫（①ナイロンモノフィラメント生産技術を活用した釣り糸の製造・販売）

●気になるデータ 中高年による起業関連データ

開業時の年齢（年代による構成比、単位：%）

	1996年	2001年	2005年	2006年
29歳以下	13.0	11.0	9.9	8.3
30歳代	37.9	34.4	31.9	34.2
40歳代	34.9	29.2	27.7	29.1
50歳代	12.3	21.5	24.1	23.1
60歳以上	1.7	3.9	6.4	5.3

出典：２００６年度「新規開業実態調査」
国民生活金融公庫総合研究所）



Brain89ersの視点　シニア・ベンチャーと呼ばれて

松本　哲郎（まつもと・てつろう）　［CEAFOM 常務取締役、九星気学研究家］

私は2004年2月にソニーOBの郡山さんとベンチャーを立ち上げました。それは結果としてのシニア・ベンチャーでした。当時私は60歳、37年勤務したソニーを定年で辞めた直後のことでした。私にとってベンチャー創立は“イツデモ”“ダレデモ”ベンチャーという流れの中にありました。そもそも、私は学生時代に東京のいくつかの大学のメンバーと同人雑誌”カオス“（通称）を立ち上げ、メンバー集め、広告取り、編集、立ち売り、何でもやりました。同人は20名くらい集まりましたが、実態は私が雑用から経営まで一人何役もこなし、6号まで発行しました。ソニーに入社してからも念願の紙製しおり付本を出版してその感激に咽びました。それもベンチャーのはしりだったのでしょう。

ソニーに入社したのも戦後生まれのベンチャーが20人から9000人の会社に急成長した秘訣を知ろうというひそかな意図もあったからです。その秘訣を身につけて自分のベンチャーを立ち上げたかったのです。結局、居心地のよさと創業するタイミングの悪さで37年も居座ってしまいました。それでもなんとなく成功の秘訣の一端をつかめました。ベンチャーでもっとも大切なことは”何をやるか“ではなく“誰とやるか”だということです。

ソニーが産声を上げたときはやりたいことは何も分かっていませんでした。とにかく井深さんを中心に人が集まったのです。井深さんたち経営陣は創立時、知恵を絞って20人のために仕事を探しました。最初はとにかく食べていくことに必死でした。おひつで電気釜をでっち上げたり、ニクロム線を仕込んだ怪しげな電気座布団を作って失敗を繰り返しました。そんな中でテープレコーダーをこしらえ、トランジスタを使ったラジオを果敢に開発していきました。20人のエンジニア集団は“自由闊達で愉快なる理想工場”を作るという理念の下に結集していました。

私は2、3年前から定年後に起業することを決めて、先輩や友人たちと準備をしていました。“才能バンク”というコンセプトでアイデアを固めつつありました。そんな時、2003年11月、平松さん（現在のライブドア社長）がソニーに遊びに来て、近くの飲み屋に流れ込み、ひょんなことから“ビジネスマンのエージェント”をやろうという怪気炎で盛り上がってしまいました。このアイデアはもともと郡山さんが暖めていた構想で大変ユニークなものでした。野球の選手や芸能人にはエージェント（代理人）がいて自分の行きたい球団や仕事を探してくれるがビジネスマンにはそんなエージェントはいない。郡山さんは65歳になったときにそのようなエージェントがほしいと願ったそうです。私が考えていた”才能バンク“の構想にも会社員のエージェント、コンシェルジェ（執事役）構想がありましたので彼のアイデアに強い共感を覚えました。ソニーOBには井深さん、盛田さんのDNAが今もしっかり受け継がれています。いわく世のために人のため、自分のやりたいことを楽しんでやる。2004年1月17日、郡山さん、平松さんをはじめ6人の同志が下田ホテルで合宿し、3日間、徹底的に構想の議論をしました。同年2月23日、われわれは株式会社CEAFOM（シーフォーム）を一気に立ち上げました。郡山さん68歳、私60歳（合わせて128歳）の起業です。われわれシニアは気が短い、大変せっかちでもあります。思い立ったらすぐやらないと忘れてしまいます。思い立ったが吉日！善は急げ！！なんでもすぐ決めて即、実行。間違ったら即、修正をする。こういったスタートでした。まず才能あるビジネスマンをお預かりし、彼らの望む転職先を探す。彼らをどんどん希望する会社に売り込む。ビジネスマンの松坂、イチロー、松井をよい球団（会社）にお世話することがわれわれの使命です。社名CEAFOMの由来は、Corporate Executives ’Agency For Organized Mobility（企業経営者流動化のための代理業）からきています。ドラッカーの”日本はオーガナイズド・イン・モビリティ（非流動化）が課題である。”という言葉を逆手に取って、日本の有能な人材の流動化を大いに図って日本の文化を変え、ビジネスマンや会社に最大の幸福をもたらそうという壮大な理念です。

そのこともあってか、大手のベンチャーキャピタルや銀行から全く実績の無いCEAFOMに出資を頂きました。当初のビジネスモデルのターゲットは中高年の経営幹部でしたが現在は対象を拡大して20代の若手から70代の熟年まで豊富になってきました。走りながら考える。柔軟に変化する。何でもあり。われわれの財産は加齢と人的ネットワーク。そもそもジェントロジー（加齢学）でいえば最大の生産効率年齢は職種によって異なるそうです。たとえばプロ野球の選手は25－35歳でしょう。運輸業は意外にも45－55歳だそうです。われわれのような人材業はおそらく60－80歳ではないでしょうか？それまではまだまだ洟垂れ小僧。にもかかわらず今の日本は職種を問わず60歳でばっさり、定年でお役御免とは何というもったいないことをしているのでしょう。最盛期にある人を60歳で切り捨てている職種がいくつもありそうです。江戸時代のように自分で定年を決めることが必要ではないでしょうか？60歳以上の人材だけでケーキ屋をやっている会社もあります。マイスターズ60という60歳以上だけをターゲットにした人材紹介会社もあります。ただ私はそういった年齢限定（年長にしろ年少にしろ）は間違いだと思っています。適正な黄金比率ミックス（人材がそれぞれの特色を生かせる）のようなものがあると思っています。CEAFOMも、中高年と若い女性が元気な会社です。親子で会社を経営しているようなものです。自由闊達で愉快な会社文化が創れるように思えます。

●松本　哲郎 氏 プロフィール

1944年、広島県生まれ。1967年、早稲田大学理工学部卒業。同年、ソニー（株）入社。外国部国際通商業務室長（TA）、半導体営業本部海外営業統括部長、国内営業統括部長、国際調査部統括部長、ベンチャービジネス統括部主席、人事センターキャリアデザイン推進部室長などを歴任。ソニーヒューマンキャピタル・シニアコンサルタント、早稲田大学アジア太平洋研究所客員教授（MOT）を経て、2004年ソニーを定年退職。同年、CEAFOMの設立に参加。
小僧'sサイト「人物図鑑・松本哲郎」公開中。
http://www.kozocom.com/kozos/matsumoto/

“Brain89ers”とは…

ビット89には、さまざまな分野で活躍する豊かな才能・個性を持った方々のネットワークがあります。このネットワーク、“Brain89ers”（ブレイン・エイティナイナーズ）の知性を共有することにより、皆さまのビジネスはより深く広く、味わい深いものとなります。そこで、毎号これらの方々に登場していただき、独自の視点からビジネスや社会・世界情勢について語っていただきます。

BIT89 Book Guide

1.目指せ！！中高年起業家
―ベンチャーを目指すあなたへ贈る確実に成功させるための鉄則

●バンダイでの出世を捨てて49歳で起業し、上場を果たした著者が熟く語る経営者への指南書。

仲吉昭治 著
朝日出版社 刊
1,470円 税込
ISBN：4021000976

2.定年起業のすすめ
―定年後を、楽しく豊かに過ごすために！

●定年後を「どのように生きようか」何をしようか」と迷っている方のために、起業の面白さ、楽しさ、やさしさを紹介。

長崎順一 著
旭屋出版 刊
1,575円 税込
ISBN：4751105736

3.熟年1人起業
―あなたのその経験が武器になる！団塊＆予備軍1000万人のためのリスタート戦略

●定年を起業の好期と捉え、第二の人生にこそビジネスチャンスがあると説く。

沼波正太郎 著
徳間書店 刊
1,575円 税込
ISBN：4198621470

BIT89

TOPICS＆プレスリリース

●第25回プラネット・セミナー開催のご案内

弊社主催のプラネット・セミナーも今回で第２５回目を迎えます。春季セミナーは少人数形式で、参加者のみなさんが主役の勉強会です。和気藹々（？）のムードのなか、お互いに経営課題を持ち寄ってその中から解決策のヒントを掴む“ポットラック型セミナー”に奮ってご参加ください。日時と場所等は以下の通りです。

昨年の春季プラネット・セミナー風景

- 日時：2007年5月21日（月）13：30～16：30
- 場所：品川区立総合区民会館「きゅりあん」6階
  小会議室（JR「大井町」駅 隣接）
- 定員：15名（先着）
- テーマ：「最近の主な法改正の概要と対応策」
  ※「三角合併」「改正法人税法」「日本版SOX法(J-SOX)」など

●セミナー・研修　最近の傾向

４月からの新年度を迎え、新入社員だけでなく、新しく昇進した中堅幹部などを対象とした教育研修を実施している会社は多いのではないでしょうか。

弊社でもいろいろな企業や団体・機関などでセミナー・研修や講演をさせていただいており、昨年から今年にかけて約７０回実施しています。最近の特徴としては経営トップ（または次世代経営者）向けのオーダーメイドの研修が増えております。世の中の傾向として、即戦力となるプロ経営者への養成が求められており、その内容もビジョン・戦略、財務会計、人事労務・組織・リーダーシップ、マーケティング、モノづくり、研究開発・新規事業など、多岐にわたっています。そして、単なる知識やノウハウ・スキルの習得ではなく、それを自社で使いこなしていく姿勢や意識・マインドの醸成に対するニーズが高まっています。弊社では自社の強みを活かして具体的な事例や統計データ・最新動向などを「リサーチ」した情報を取り入れるとともに、依頼先企業（または機関）の課題解決につながるヒントや提言なども盛り込んだ「コンサルティング」的要素も兼ねたセミナーに仕上げております。

吉田健司　著書のご案内

●好評発売中！！　戦略」「ヒト」「モノ」「カネ」「文化」の本質と応用がつかめる本です。
実践！MBAトレーニング　中国ビジネスのケーススタディ」 PHP研究所刊　2,000円

●好評発売中！！　MBAコースのエッセンスをいいとこどりした本です。
即戦力が身につく！　最強のMBAバイブル」 PHP研究所刊　1,400円

※上記2冊はお陰さまで、完売しました。
なお、「即戦力が身につく！　最強のMBAバイブル」（改定版）につきましては、弊社に若干の在庫がございますので、ご要望の方は弊社宛にご連絡ください。

●写真左
実践！MBAトレーニング
中国ビジネスのケーススタディ
●写真右
即戦力が身につく!
最強のMBAバイブル

ビット89インフォメーション

●発売中の書籍内容に沿ったテーマだけでなく、最新のビジネスメソッドに関する講演、セミナーのご依頼に積極的にお応えいたします。また、併せてマーケティングリサーチ、各種ビジネストレーニングおよび経営コンサルティングなどに関するお問い合わせなどは、左記までお気軽にご連絡くださいませ。

●皆様の会社が、現在抱えておられるビジネス上の課題を解決してみませんか？　弊社代表 吉田健司が「経営プラネット」および「ビギナー会員（体験会員）」の皆様を対象に、毎月先着5名様まで頂いた質問にEメールまたはFAXにてご返答いたします。ご希望の方は左記のEメールアドレスまたはFAX番号宛にご質問内容をお送りください。

●INTEREST編集部では、INTERESTで特集を組んでほしいテーマを募集しております。左記のメールアドレスより編集担当宛に御社名とお名前を明記の上、お寄せください。

株式会社 ビット89
東京都品川区大井1-6-3
アゴラ大井町ビル7F　〒140-0014）
TEL　03(3774) 8950
Fax　03(3774) 8951
メール　info@bit89.co.jp
HP http://www.bit89.co.jp
発行責任者　吉田　健司